

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091000119		
法人名	セントスタッフ株式会社		
事業所名	グループホーム福岡天神南さくらそう		
所在地	福岡市中央区春吉2-15-18		
自己評価作成日	平成30年6月22日	評価結果確定日	平成30年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足していただける食事提供を心がけています。業者に依頼してはいますが、数社の試食を行った上で味に自身をもって提供できる業者に依頼しています。</li> <li>・外出行事等を含め、入居しても楽しんでいただけるイベントの企画を行っています。(寿司パーティー、かに鍋、バーベキュー、納涼祭など)</li> <li>・運営がトップダウンにならないよう、「現場のことは現場で決める」という方針で運営しています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成30年7月11日		

<p>福岡天神南さくらそうは平成29年6月に開設されたばかりの事業所で1、2階は提携診療所があり、3階は小規模多機能ホーム、4、5階に2ユニットのグループホームが位置する。母体は介護、医療に特化した人材派遣会社であり今年で20年目となる。その経験を活かし、利用者のため何かをしたいとの思いから、関東、東京、仙台などにグループホームを設立した。当事業所は市の中心にあり交通の便もよく、スーパーなどの商業施設にも近く買い物などに出かける事も多い。事業者から5分ほどのところに、広く緑豊かな公園もあり、春には見事な桜が咲き散策する。又楽しみのひとつである毎日の食事及びイベント内の食事にも力をいれ自分たちで試食し決めている。小規模多機能で茶話会を行ったり、公民館の行事にも参加し、公民館だよりにのせてもらうなど地域との交流も増えている。今後もさらに地域との連携を深め、益々の発展が期待される事業所である。</p>
---

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お一人おひとりが、その方らしい暮らしのために」という理念のもと、縛りをつくりすぎないことは実践できている。一方で、地域との連携においては不十分である。	母体法人の関東のグループホームの理念をベースに、事業所 開設時にみんなで考え話し合い作った。入職時には紙面で渡している。管理者、職員ともにおりにふれ、理念を共有し話し合い、実践につなげている。	事業内で、スタッフルームやホールなど、どこか見やすいところに理念を掲げてみてはどうだろうか。また、さらに理念をふまえて実践につなげていけるよう、にミーティング時に理念の振り返りをしてみたり、理念に対しての事業所目標や、個人目標なども立ててみるのも良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	イベント交流は行っており、併設の小規模多機能ホームで毎月行われる地域カフェに参加している。	小規模多機能で行なわれている茶話会で認知症の勉強会などを行い地域の方の参加もある。校区の夏祭りや盆踊りを見に行った。建物1、2階にあるかかりつけ医は建物のオーナーで、昔から地域に根づいた医院であり、地域との交流の橋渡しになってもらっている。地域の方が訪ねてきて入居につながったこともある。	今後、保育園などとの交流も考えていくとの事で、実現に向けた具体的な取り組みがなされることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模多機能ホームと連携して、認知症講座等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	項目の通り行っている。	運営推進会議は二か月に1回3階の小規模多機能ホームで開催。地域包括、民生委員、かかりつけ医看護師、他小規模多機能管理者等の参加あり。家族全員に案内を出し4～7、8名参加する。家族、参加者からの意見、質問などについては迅速に対応している。職員の顔と名前が一致しないとの意見があり、エレベーター前の入口に職員の名前、顔写真を掲示した。議事録の送付は行っていないが、「さくらそう便り」を二か月に1回郵送している。	二か月に1回郵送している「さくらそう便り」の記事内に、運営推進会議で話し合い、改善されたことなどを掲載したり、一筆便にしたためてみてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組めていない。運営推進会議の案内も送付しているが、欠席である。	運営推進会議の案内は送付しているが参加はない。市には加算の件、身体拘束についてなど電話で尋ねている。身体拘束適正化委員会を作り、三か月に1回は開催し、議事録を残すようにとの指示があり、2か月に1回事業所内で開催している。介護保険法はよく読みこんでいる。市、地域包括などへ、空き状況の報告は行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、2ヶ月に1回の身体拘束廃止委員会においても協議している。夜間等、安全面を重要視した場面では玄関の施錠も行っている。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、二か月に1回身体拘束廃止委員会においても協議している。夜間など安全面を重視した場合は玄関の施錠を行っている。以前一人で外に出た利用者があり、大通りは交通量も多く心配をしている。エレベーター前にはセンサーを置き、1階には事務員を置くようにした。家族の了承のもと、民生委員、警察の方へも連絡をしている。言葉づかいはため口にならないようにその場で注意をするようにして、お互いに意識を持ちケアに取り組んでいる。	

H30.7自己・外部評価表(グループホーム福岡天神南さくらそう)8.10.xls

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて取り組んでおり、言葉遣いの乱れなどに職員間で気を配っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみが理解しているのが現状である。	入所前より成年後見制度を利用している方が1名いる。年間の研修計画は立てており、管理者が権利擁護の内部研修は行っている。制度利用の希望があった時は、顧問弁護士につなげるようにする。今後も制度について学ぶ機会を持ち、制度の理解を深め活用できるようにしていく。	日常生活自立支援事業や成年後見制度などのパンフレットを常備するようにしたらどうか。また、成年後見制度を利用している方を職員間で周知すると、事業所内での理解も進むのではないだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	項目の通り行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用している。	運営推進会議にて家族からの意見を吸い上げ運営に反映させている。家族の訪問は毎日ある方が二人、週1回又二週間に1回見える方が三人。ほぼ全員月1回以上の訪問があり、意見を聞いている。毎日帰宅願望がある方がひとりおり、家族は荷物の搬入などはされるが、本人には会っていない。意見箱は1階に設置している。半年に1回アンケートを出す事で気付きがあり、運営に反映させている	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔週の管理者・リーダーミーティング、毎月の全体ミーティングを通して意見を聞き、反映させている。	隔週に管理者とリーダーがミーティングを行い、月1回の全体ミーティングに落とし込む。ミーティングの時間はだいたい決まっている。正社員、契約社員全員の出席で行ない、出席できない時は送付をする。事前に意見がある時は、リーダーに伝える。体調を崩している時などシフトを変えてもらったり、仕事の内容を考慮してくれ仕事が続けられている。どのようにしたらスムーズに仕事が回るか時間帯をみんなで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な人事考課制度があり、定期的な役員面談も実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	項目の通り行っている。年齢層に関しては21歳～55歳が幅広く活躍している。性別に関しては、就業希望者に女性が多く、約8割は女性職員である。	年齢層は20歳代から50歳代で、8割は女性職員である。半年に1回契約更新時に、個人面談がある。出席簿を持参した時に、相談に乗ってもらう。夜勤の時も声かけをしてくれ、安心して仕事ができる。休憩時間は1時間取れ3階の空きスペースで休む。外部研修は希望を出せば行かせてもらえる。小規模利多機能の看護師により、痰吸引の方法を習った。AEDの使用方法も習得している。自分の得意な部分を活かし利用者と一緒に飾り物を作ったり利用者の誕生日にリコーダーを演奏した人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を通じて取り組んでいる。	入職時に接遇の話を行っている。管理者が外部研修に行き内部研修に落とし込んでいる。利用者に対し人権を尊重し、その人なりの適切なケアをするように、今後も取り組んでいこうと思っている。	小規模多機能で行っている茶話会で人権の話をする機会が持てたら行ってみたいだろうか。また、外部講師による出前講座、人権関連団体を活用した研修やDVDを利用した動画研修など、取り組みやすいことからされてみるのも良いのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はあるものの、量的に不足感がある。OJTは実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークの構築に取り組んでいるが、相互訪問は実施できていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	項目の通り行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	項目の通り行っている。面会時をはじめとし、面会が少ないご家族には電話連絡をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力項目の通りしているが、初期ではご家族も不明なことが多いため、サービスを提供する中で話し合いながら行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	項目を理想とし、安心かつ楽しみのある暮らしを送っていただくために職員も一緒に楽しめる機会を設けている。発言が少ないご入居者にこそ目を向ける努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一体的に本人を支える努力をしている。本人と接触の機会が少ない家族にはこちらから働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があっても、馴染みの場所や人との関係が保てていないことが多い。通い慣れた美容室にお連れするなどできる範囲で行っている。	教え子が誕生日に花のプレゼントを持ち訪問したり、趣味の教室の生徒の訪問もある。以前から利用している美容院や、以前住んでいた近くのうどん屋さんに行ってみた。自宅近辺をドライブし、昔よく遊んでいた公園などに行ってみたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。正月、法事、彼岸などは家族と一緒に帰り、泊ったり、一時帰宅をしているが、馴染みの場所や、人との関係が保たれていない利用者も一部いる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている方とそうではない方がいる。利用者同士のコミュニケーションが難しい方には職員が積極的にアプローチしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り努めているが、退去の理由がご逝去のため難しい部分もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	項目の通り行っている。	契約時には自宅を訪問する事もあるが、家族や病院から情報を聞き取りアセスメントやフェースシートを取得する。聞き取った内容はカンファレンスで職員とも共有し、状況が変わった時はそのつど話し合う。再アセスメントは3か月或いは6か月で見直しを行ない、担当者と管理者で検討し作り上げる。毎日訪問している妻が夫の様子などをノートに書き、職員が返事を書き交換ノートになっており、より深く利用者の思いが把握できる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から入居後のヒアリングまで適宜行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	項目の通り行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いを行って実践しているが、介護計画は内容が薄くなってしまっている。	申送りは丁寧に細かく書かれており、日々の実施記録もきちんと項目ごとに書かれ実践している。3か月毎にモニタリングを行い、短期目標に併せサービス担当者介護を行っている。家族が出席できない時には、事前に本人、家族の思いを聞き取る。医師などからも事前に意見を聞き、家族に伝え、コメントは記録に残している。今後ケアプランをすぐに見えるような状態にする。	プランを視認しながら実施記録を録ったり、プラン実施チェックを行ったりと、ケアプランと実施記録の連動性を図り、職員それぞれが、よりサービスの内容を考えられるようなやり方の検討をされてはどうだろうか。

H30.7自己・外部評価表(グループホーム福岡天神南さくらそう)8.10.xls

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有と実践はできているが、介護計画への反映が充実していない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	項目の通り取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用できていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	項目の通り行っている。往診や受診以外にも必要に応じて情報の共有を行っている。	ビルの1、2階にある医院がかかりつけ医になっており、他科受診は家族が対応。二週間に1回訪問歯科あり、週1回歯科衛生士から口腔ケアの指導を、利用者、職員も一緒に受けている。他科受診するときは、医師間で書類を送ってもらい、かかりつけ医から事業者の方へ連絡がある。薬の処方があった時は申し送りノートに書き、パソコンに打ち込む。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	項目の通り行っている。訪問看護師からの指示等についてはノートを作成し、記録として残している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	項目の通り行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点での本人様とご家族様の意思確認を行い、状態の変化に応じて再度意思の確認を行っている。	入居時点で本人と家族の意思確認を行い、状況の変化があった時再度話し合い、意思の確認を取る。平成29年10月に入居した方を、今年の3月に看取った。看取りの研修は小規模多機能の看護師が講師となり行った。かかりつけ医、医師の妻が看護師をしており、又小規模多機能に看護師がおり、24時間対応ができる。急な時には管理者にもすぐに連絡が取れ、職員も看とりに対しきちんと対応ができている。家族の協力もあり、居室にソファを運び泊ってもらった。	

H30.7自己・外部評価表(グループホーム福岡天神南さくらそう)8.10.xls

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修を行っているものの、定期的な訓練は行っていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を昼夜それぞれの設定で行っている。地域住民の参加は促すことができていない。	ビルの1、2階にあるがかりつけ医院の行事に合わせ、警備会社職員の立ち会いの下、年2回、1回は夜を想定し行っている。医院、小規模多機能、グループホームと合同で行い、火事を想定し水消火器で使用方法を教えてもらった。5階に登る避難訓練を行い、3階にはスロープがあり、建物両脇に内階段がある。備蓄は医院で行っている。避難場所は近くの公民館である。	地域で行われている防災訓練の情報などを集め、参加の検討などもされてはどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いはもちろんのこと、声かけの仕方や対応は職員同士で見直すようにしている。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに注意し、ため口をしない「です」「ます」を使用する、こども扱いの言葉づかいをしないよう職員同士で気をつけている。話すときは目線を同じようにする。排尿などの促しには「こちらまでお願いします」と声かけ、おむつ、下着、タオルなどは、トートバッグで持ち運んでいる。「対応、接遇」などの内部研修を管理者が行っている。写真の利用に関しても書面で同意をもらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現していただくことは多いが、自己決定できる場面が少ないのも事実としてある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。共同生活の中である一定の決まりごとは設けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりがある方とそうでない方がいらっしゃるが、基本的に衣服も選んで来ていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる範囲で一緒に準備や片づけを行っている。定期的に外食の機会を設けている。	小鉢は出来あがったものが来て事業所で温め、焼き物、揚げ物も事業所で行う。米には特にこだわりを持ち、自分たちで試食して決め、事業所で炊いている。宅配業者も事業所の要望に応じてくれる。利用者にはできる範囲で小鉢のとりわけ、食器洗い、拭くなどを行ってもらう。外食レクも定期的の実施し、回転ずし、パスタ、定食屋などに行き、小戸公園でバーベキューパーティーを行った。誕生日には自分の好きなものを食べに行くなど、個別対応をしている。	

H30.7自己・外部評価表(グループホーム福岡天神南さくらそう)8.10.xls

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	項目の通り行っている。水分内容の検討やストローでの提供など、お一人ひとりの状態や好みに合わせた提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っており、基本的に自立の方でも最終確認を職員が行っている。また、往診先の歯科衛生士からの指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	項目の通り行っている。入居時にはオムツ交換のみの対応だった方が、トイレでの排泄が可能になった例もある。	ユニットごとに全員分を24時間管理できる排泄チェック表がある。申し送りノートには詳しく状況を書き込み全員で共有し、フロア内でのカンファレンスで改善点を話し合い、逐次提案につなげている。リハビリパンツとパッドから布パンツにパッドになった。夜間おむつをしているが、トイレに行きたいと言われたときは、トイレで排尿してもらうなど自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫等行っているが、排便が数日ない方の割合が高い現状がある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は基本的に固定しているのが現状であるが、入浴中はご入居者のタイミングに合わせて時間配分をしている。	日曜日以外の週2回、入浴時間を設け、一日2~4人入浴する。入浴の順番は希望に沿うようにし、長い方は1時間ほど入浴している時もある。拒否のある人は曜日をずらしている。入浴を楽しめるように季節の行事浴でゆず湯などを行った。個浴でゆっくり好きな香りのシャンプー、リンスなどを使用している。皮膚疾患がある時はかかりつけ医院の医師に見えもらい軟膏などを処方してもらう。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間を特に設けず、それぞれの就寝のタイミングに合わせて休んでもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書に加え、薬剤師からの説明を直接受けるようにしている。変化がある際には必ず記録に残し、医師に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割はもっていただくものの、気分転換の支援が十分にはできていない。		



H30.7自己・外部評価表(グループホーム福岡天神南さくらそう)8.10.xls

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出の希望には添えていないのが現状であるが、近距離の散歩から遠距離の外出レクなど、提供できる範囲で行っている。	年間行事はあり、月1回外出レクを行っている。餅つきは小規模多機能で実施し、地域の公民館の餅つきにも参加した。桜見、山笠、バーベキューパーティー、もみじ見学、遠方への外食などへ車いす対応で施設の車で行っている。3~4人づつ日にちを変えていくようにしている。近隣では公園や、スーパー、コンビニなどに行くことが多い。意欲の乏しい人は家族の協力を得て外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人とご家族の意見を最大限に尊重している。ただし、金銭管理には施設側は介入しないことを了承のもとである。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は出すことができるよう支援しているが、電話は帰宅欲等の兼ね合いから制限させてもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの製作物を取り入れたり、温かみのある色を使用するなどしている。	交通の便のよい街中に立地しているが、明るい日差しが廊下いっぱいにあふれている。両側に部屋のある真っすぐな廊下は、歩行訓練にもなる。食事フロアは58㎡ほどあり、広くゆったりとしている。車いす対応のトイレが2個、普通のトイレが2個ある。ソファは時々置き換え気分転換を行っている。製作物がこどもっぽくならないように気をつけている。各事業所の入り口ドアには「お出かけの際は職員に声をかけてください」と張り紙をしてある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーを設けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持参をお願いしたり、置物をもってきていただいたりしているが、強制することなく、自由にアレンジしていただいている。	クーラー、ベッド、洗面所、カーテンは備え付けてある。部屋の上部に棚も作られてあり、季節の変わり目に衣服などが収納できるようになっている。衣服をハンガーにかけ、棚の端にかける事もできる。利用者はほぼ半分が男性であり、部屋はシンプルでオシャレにまとめている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮しているが、自立に向けた工夫は十分にできていない。		